



2018年7月発行 No. 114

発行者 田森茂基 編集者 西島啓喜

発行所 070-0058 旭川市8条西1丁目1-11

旭川バプテスト教会内

http://hokkaidobap.jimdo.com pw:jbc1947

巻頭言

「宝を発見した時」

北海道バプテスト連合 書記 西島啓喜（帯広教会）

あるいは、ドラクメ銀貨を十枚持っている女がいて、その一枚を無くしたとすれば、ともし火をつけ、家を探し、見つけるまで念を入れて捜さないだろうか。そして、見つけたら、友達や近所の女たちを呼び集めて、『無くした銀貨を見つけましたから、一緒に喜んでください』と言うであろう。（ルカ15：8-9）

昔の大学での話。当時の大学の学部・学科分けは教養課程での成績順に希望する学部・学科を選ぶことができた。私は教養の不勉強がたたって第1希望の電気工学科には入れず、それに近い応用物理学科に入るようになった。不本意な勉強のスタートだったが、古典力学を学んでいる時、 $F=ma$ という式で世界のすべての運動を記述できることを学び感激した。惑星探査衛星「はやぶさ」もこの式によって小惑星にたどり着き帰還することができる。すべての物理現象を微分方程式で記述できるこの美しい物理学の世界に魅了され、ぜひこの感動を教えたいと理科教師の道を選んだ。すべての生徒が理解できたとは思わないが、何人かの目を輝かせて聞いてくれた生徒を励みに教えてきた。図書室でポツンとしている留学生を見ると「物理なら教えるよ」と下手な英語で教えた。試験をして1つ間違え95点だったが悔しがっていた。でも帰国してクリスマスカードに「私の物理の先生」と書いてくれたのはうれしかった。

研究室で、あるとき、強烈にニンニクのおいが漂っているのに気が付いた。助手の先生にそれとなく聞いてみると「同僚が『ニンニク健康法』という本を書いてそれに刺激されて毎日食べているんだ。この本はいいよ」とその本を渡してくれた。読んでみるとニンニクの効用がこれでもか、これでもかと書いてある。私もすっかりニンニク党になった。それから家でも、ニンニクの味噌漬け、しょうゆ漬け、ニンニク炒め・・・ニンニクのあらゆるレシピを試みた。私甘「ニンニクの伝道師」になろうかとさえ思った。しかしあるとき、胃がキリキリと痛くなり、本

の最後を見ると「食べ過ぎると胃を痛めます」と注意書きがあるのを発見した。

聖書には銀貨をなくした女が、それを発見すると友達や近所の女たちを呼んで「一緒に喜んでください」と報告する記事がある。サマリアの女性はイエス様に出会ったとき、「さあ、見に来てください。この方がメシアかもしれません」と避けていた町の人々を誘って来る。私たちが本物の宝を発見した時は隠しておくことができず、それをみんなに伝え、喜びを分かち合いたいと願う。これこそが福音伝道なのだと思う。銀貨でも、 $F=ma$ でも、ニンニクでもなく、それ以上に素晴らしい「宝=福音=神の愛」を発見したとき、それは伝えずにはおられない。ペテロは言う『金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい』と。教会は何を宝として伝えようとしているのであろうか。本物の宝を提示するとき、だまっけていても人は人を誘い伝えたいと願う、だまっけていても人は集まる。

教会員ではない町内会の役員の方が役員会で「この教会はいいよ」と宣伝して、近所の人を誘って集会に出席して下さる。町内に住む方が「ここで葬儀をお願いしたい」と言っているとも聞く。未信者の夫が「教会に行きたい」と妻や家族を連れてきてくれた。ありがたいことだ。伝道に特效薬はない。近道を求めて金銀に頼るのでなく、朽ちない本物の宝を提示し続ける教会でありたい。

●第13回 礼拝音楽研修会（函館） ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 函館教会 日裏 知代

日本バプテスト連盟・教会音楽専門委員会による礼拝音楽研修会が、5月12日（土）、13日（日）と行われました。函館の二教会、室蘭教会、平岸教会（札幌）、山形教会からも参加者が集いました。

研修会の分科会では、奏楽バンド、聖歌隊、奏楽の3つに分かれて行われました。私は江原美歌子先生が担当された聖歌隊の分科会に参加しました。

発声の腹式呼吸について詳しく教えて頂き、今まではお腹から声を出すという事が具体的にどうすればいいかわかりませんでした。江原先生から具体的な複式呼吸の方法を教えてください、こうすればよいのか！という発見がありました。また、讃美の歌詞は、固まりで捉えて歌っていくというポイントも教えてください、それを実践する中で、声をらくに出す事

が出来るとなり大変驚きました。

分科会の後半の学びでは、「聖歌隊」・「会衆讃美」の役割を考える時があり、神学者のキルケゴールの「劇場のたとえ」を用いて、礼拝における役割を皆で考えました。それは、歌手＝会衆、プロンプター（隠れて歌手に歌詞を教える人）＝礼拝奉仕者（説教者、聖歌隊、奏楽者、司式者等）、観客＝神様、という図式に例えられるというものです。礼拝において観客は神様なので、讃美は人に代わって歌うのではなく「神様に向かって歌っていくべきである」という事を再度確認する事が出来ました。

研修会全体を通して他にも沢山の事を学び、礼拝の奉仕者としての立ち位置が明確になり、学ぶ事の大切さを痛感する貴重な機会となりました。

●牧師セミナーの報告 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 室蘭教会牧師 吉田尚志

6/12（火）～6/14（木）、国立日高青少年自然の家で北海道連合牧師セミナーが行われました。

今回の研修テーマは「北海道での伝道について～昨日・今日・明日～」。講師に、三浦忠雄先生（留萌宮園教会牧師／日本キリスト教団北海教区アイヌ民族情報センター主事）をお招きし、アイヌの歴史を中心に大変示唆に富んだお話しをいただきました。アイヌ民族は漁狩猟を生業としつつ、広範囲にわたる交易を行っていましたが、15世紀以降、和人（日本人）移住の急増によりアイヌ民族の平和で豊かな暮らしが破壊されてゆきました。

府による「北海道命名」は、決定的なアイヌ民族への“侵略”を意味しました。それから150年が経とうとしている現在。“北海道命名150周年”“北海道開拓150周年”と湧き立つ巷の声は、アイヌ民族の方々の胸にどのように響いているのでしょうか？歴史や事実の立ち位置によってその見え方が変わると聞いたことがあります。その意味でわたし自身のこれまでの立ち位置が、アイヌ民族の側に立ったものでは決してなかったことをあらためて思われています。同時に、そのような歴史が刻まれているこの北海道の地における今後の教会のあり様というものが、今、問われているように思います。

19世紀後半1870年（明治2年）の日本政

●協力伝道会議に寄せて ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 日本バプテスト連盟 宣教部部長 松藤一作

今年度、全国各地で「協力伝道会議」が実施されます。これは、連盟結成70年を機に、今という時代を見極め、諸教会・伝道所が抱えている課題を共有しつつ、これからの協力伝道の在り方を考えていこうとするものです。

これまでの70年を振り返るとき、私たちの協力伝道は、米国南部バプテスト連盟からの篤い祈りと捧げものに支えられ、さらに「自給・自立」を果たした1970年代後半からも「基金・資金」によって支えられてきました。そして今は、全国諸教会・伝道所が献げてくださる協力伝道献金によってのみ、協力伝道の働きが進められていく時代に入っています。もはや潤沢な財政基盤があるわけではありません。

こうした中で、これからの連盟の機構や、協力伝道の在り方について考えていこうとしています。しかし、単に「お金がないから」というだけでなく、諸教会が取り組んでいる課題や、抱えている困難などを充分踏まえながら、これからどんな協力伝道が出来るのかを、みんなで考えていきたいと願っています。これまで連盟の機構改革や重要な宣教政策の転換期には、「宣教会議」が開かれ、連盟内で様々な役職を担っ

ている人たちが集まって、そのつど協議がなされてきました。今回は、連合の協力を得て、諸教会・伝道所の皆さんが中心となって、これからの教会、これからの連合、これからの連盟を語り合っていきます。いわば、これからの連盟のことを、全国の322の教会・伝道所がみんな考え、共に語り合っていくという大きなプロジェクトが「協力伝道会議」です。

北海道連合では、信徒大会の中で「協力伝道会議」が実施されます。北海道という地域で、それぞれの教会がどういった取り組みをしているのか、そしてその取り組みの中でどのような困難を抱えているのかを、共に分かち合っていきましょう。さらに、連合や連盟などの働きを通して、どういった協力出来るのかアイデアを出し合っていきましょう。6月初旬に諸教会・伝道所へお送りした『事前配付資料』をお読み頂いてご参加ください。

北海道連合の協力伝道会議は、8月13日（月）の18時半から国立日高青少年自然の家で行われます。この部分だけでも参加したいという方は連合役員までお知らせください。

●野口日宇満宣教師・野口佳奈宣教師の帰国報告会（道東地区）

7月14日（土）、帯広教会を会場に道東地区の報告会が開催されました。釧路教会と帯広教会、エイカーズ愛国外伝道委員を含め、約20名が参加し、両宣教師の報告を伺いました。インドネシアは300を超える民族、600近い言語、全ての国民が家族ごとに宗教登録をするなど日本の状況とは全くちがう環境の中で仕えていることが紹介されました。

87%がイスラム教徒、10%がキリスト教という状況の中で、どれかの民族、宗教が支配的になるのではなく、共存の道を尊重している

という説明に感銘を受けました。

最後に献金、お祈りの感謝とともに機会があれば実際に見学に来てほしいと話されました。

